

歎かはしき祖國

赤谷慶子

米國のドナルド・トランプ大統領はやうやう大王にて君臨しをり、關稅、拉致、暗殺、戦争と天下を混沌とせる有様に陥れたり。吾は中学・高校と六年を米國の首都ワシントンにて過し、友もをり第二の故郷とおのれの中には思へり。しかれども、天下の數多の國ともめ事おこし、悲しいかな今や天下の嫌はれ物になれり。

米國在住の頃、アイビーリーグを志す進學校なりし聖心女子学院系列の Stone Ridge School of the Sacred Heart へ通へり。上院議員や下院議員の他富裕層の女子學生大數多にて、下級生低學年には司法長官なりしロバート・ケネディの子供ら數人ありき。

高校二年生の時に歴史の授業に南北戦争に焦點当たり、親が共和党か民主党かにより、意見眞つ二つに割れたりき。完全保守とリベラル、共和党系の生徒は奴隸制度は黒人守るには最適なりきと。民主党系の學生は同じ人間を肌黒ければ奴隸にするは人權蹂躪といふ討論になりき。かかる議論をここの學生は闘はするやと驚きしためしは記憶より消えざりき。

トランプの第二期政權になり、米國は天下の警察官、指導者止め、米國第一主義掲げ邁進したり。誰の意見にも耳を貸さぬトランプは大王と呼ばれ、おのれの好き勝手に動きたり。かかる人物を米國大統領に選びし亞米利加人はさればいかなりや、世界中注目してあり。

米國の友らは米國壞れゆく様を悲壯感もちて嘆き、亞米利加人を止めたしと言へる人も多し。北大西洋條約機構(NATO)は不要と言ひつつ、伊蘭への攻めに出口の見えぬ今、歐洲の協力不可缺ならむと發言する大王。中間選舉にていかならむや見ものなれど、友どもの憂鬱は我にも理解し得る所なり。世界の強きリーダーとしての米國はもはや戻らざらむや。

(令和八年三月九日受附)